

時間語との共起関係

長原成功*
narika77@duft.ac.kr

<目次>

- | | |
|------------|--------------------|
| 1. はじめに | 4. 「～たばかり」と時間語との関係 |
| 2. 先行研究 | 5. 「～たところ」と時間語との関係 |
| 3. 調査方法と範囲 | 6. おわりに |

主題語: ～たばかり(～tabakari)、～たところ(～tatokoro)、時間語(Time-related words)、共起関係(Co-occurrence)、コーパス(corpus)

1. はじめに

「～たばかり」と「～たところ」についての研究は森山(1984)で「詳しく研究されているが、「～たばかり」と「～たところ」の両者については「アスペクト的な意味ではシタバカリダ」と全く同じであると述べている。しかし、1980年以降「～たばかり」と「～たところ」の研究は学者や研究者によって文法的範疇や意味論的な観点からの主張が異なっており、現場で日本語教育に携わる際教える立場としても混乱を来たす場合がある。

また、韓国の日本語教育現場で使われている教材を見てもほとんどが韓国語の訳と接続方法が書かれているだけで、特に「～たばかり」と「～たところ」と時間語との関係においては具体的な説明がされておらず、説明がされている教材の場合でも「今」「たった今」「さっき」「先週」「一時間前」の時間語に対する説明のみである。3)。

本稿では青空文庫4)を利用して「～たばかり」と「～たところ」の前にはどんな時間語が共起

* 大邱外国語大学校 日本語通訳学科 専任講師

1) 森山卓郎(1984) 「～ばかりだ/～ところだ」『日本語学』vol.3-10 明治書院、pp.13-20

2) 本稿では時間的位置や関係を表す語彙、即ち時点、時間の幅、順序、持続、瞬間、頻度、変化などを表す言葉を「時間語」と呼ぶことにする。

3) 朴舜愛外(1995) 「日本語バンク日本語会話2」日本語バンク、p.168、p.173

4) <http://www.aozora.gr.jp/> 本稿で青空文庫を利用する理由は話者の主観が入る性質を持っている時間語な

しているのかを調査し、その時間語を性質別に分けて「~たばかり」と「~たところ」と時間語との共起関係における共通点や相違点を調べ、日本語教育現場で活用することを目的とする。

2. 先行研究

「~たばかり」と「~たところ」の研究ではまず森山(1984)が挙げられる。森山では「子供はさつき寝たばかりです。」と「僕はさつき寝たばかりだから、看病を交替しよう。」の2例を挙げ、前者は「起きている状態」から「寝ている状態」への変化の直後がとりあげられていて「今も寝ている」という意味になっているが、後者の例文は「持続的に寝ること」全体がとりあげられていて、そうした出来事の意味、つまり、「今は寝ていることを終わって、起きている」という意味になっていることを説明している。また、テンス・アスペクト的観点から動詞を①一時点型②動作・変化型③変化・維持型④動作・変化・維持融合型⑤等質的維持型の5つに類型化し、「~たばかりだ」との時間的な意味構造を述べ、さらにアスペクト的な意味では「~したばかりだ」と全く同じだと述べている。

また、楠本(1999)では「ところ」全体の意味機能について研究しており、その中で「~たところ」については事態成立との時間的近接関係があることが前提となるとし、例えば「学校から2時間前に帰ってきたところです。」は普段の生活の中で2時間という長さに時間的近接さは感じられないため非文となり、「海外赴任から先月帰ってきたところです。」の場合は海外赴任が長い分、帰国から今までの一ヶ月間の長さは短く時間的近接さが感じられるため文が成立するとし、さらに「すいません。今××駅を出たところです。」のように「~たところ」には実況中継風の意味合いも入っていると述べている⁵⁾。

一方、「~たばかり」の研究としては中村(1999)の研究がある。中村では小説、エッセイ、評論、評伝、ルポ、雑誌からなる計70冊の文献から「~たばかり」の例を抽出したものを「~たばかり」に後続する文は何らかの否定的評価が入るとの仮説を立て、分析を行った。その結果、「~たばかり」の意義素を構成する意義特徴は①ある動作・作用などが終結した直後とい

どが数多くあるため、新聞などで使われている客観的な時間語よりも幅広く時間語の収集ができると判断したためである。

5) 楠本徹也(1999)「トコロの意味と機能に関する一考察」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』26, pp.80-81

う<時間的直後>、②①に於ける動作・作用が完結した直後に生じた状態が何らかの形で継続しているという<状態継続>、③上記の動作・作用の主体あるいは対象とそれに関わる人や事柄に関して何らかの否定的評価が形式的・意味的に後続するという<否定的評価の後続>の三つにまとめた⁶⁾。

最近の「～たばかり」と「～たところ」についての研究では金(2008)がある。金は従来の研究の問題点を挙げ、「～たばかり」と「～たところ」に対する意味機能を再考し、さらに「～たばかり」と「～たところ」両方が使われる時の意味ニュアンスの差を分析して、結局「～たばかり」は「ある行為ないし事態が起こってからごく短い時間性を強調する時に使われるものであり、「～たところ」は話者が現在の状態ないし状況をありのままに表す時に使われるものである」という結論に至った⁷⁾。

また、呉(2011)では「～たところだ」と「～たばかりだ」をアスペクト的観点、モダリティ的観点、文法化的観点の3つの観点から分析し、そのなかのモダリティ的観点のなかで時間を表す副詞として「ちょうど」と「今」の二つの時間語を挙げ、「～たところだ」と「～たばかりだ」との共起関係に対する分析に触れている⁸⁾。

上記のように「～たばかり」と「～たところ」についての研究は意味機能またはアスペクトやモダリティ的な観点から接近したものがほとんどであり、時間語との共起関係を詳しく記した研究は見当たらない。

3. 調査方法と範囲

本稿では「～たばかり」と「～たところ」と時間語との共起関係を調べるために青空文庫を利用するが、青空文庫の例文を集めて一度に表示することができるように作られた宋浩の正規表現検索窓FOR日本語コーパス言語学⁹⁾の検索エンジンを利用して例文を抽出して調査することにする¹⁰⁾。そして「～たばかり」を抽出した後「～たばかりか」、「～たばかりに」のように「ある行動を行った後(直後)」という意味ではない文章を除く作業を行う¹¹⁾。また、

6) 中村重徳(1999)「再び、「～たばかり」について：意味論的観点から」『北海道大学留学生センター紀要』3

7) 金昌奎(2008)「～たばかりだ」と～たところだ」における「ばかり」と「ところ」の意味機能の研究『日語日文学』39輯

8) 呉守鎮(2011)「～たところだ」と～たばかりだ」に関する一考察『日語日文学』50輯, pp.77-79

9) <http://www.nihon.co.kr/rxsearch.html>

10) 本調査は2011.11に行った調査である。

「~たところ」も同じように抽出した後「本稿で行う「ある行為を行ったり、ある出来事が終わった後」の意味を表さない「~たところで」「~たところが」「~たところを」「~たところに」などのような例文は除去する¹²⁾。抽出作業がすべて終わった後は抽出した時間語の性質を把握し、その性質ごとに分類して考察していくことにする。

4. 「~たばかり」と時間語との関係

正規表現検索窓口FOR日本語コーパス言語学の検索エンジンで「~たばかり」を抽出した結果、計2237件の文章がヒットし、その中から本稿での調査対象となっていない「~たばかり」をすべて取り除くと計2137件となった。この2137件の文章のうち、さらに時間語と共に使われている文章を振り分けた結果、計466件の文章が抽出された。この466件の文章に出てきた時間語をそれぞれ時間語の特性別¹³⁾に表にまとめると以下の通りになる¹⁴⁾。

<表 1> 「~たばかり」と発話時を含む時間語との関係

時間語	件数
今	151
最近	9
今日	9
今朝	7
今年	7
近頃	3
この頃	3
近年	1
今月	1
今頃	1
昨日 今日 ¹⁵⁾	1

11) 今回の調査では「~たばかりの~」「~ばかりで」はカウントすることにする。

12) 今回の調査では「~ていたところ」のように「~ていた」の形を取っている例文は除外することにする。

13) 時間語を特性別に分ける基準としたのは仁田(2002)『副詞的表現の諸相』の第7章による。pp.201-258

14) <表2>から<表8>までの時間語の合計が477となるのは「やっと今」のように発話を基準とする時間語と起動への時間の幅を表す時間語が重なっている場合は「やっと」と「今」を別々にカウントしたために抽出した文章数とは多少差が出ている。

上の結果を見て分かるように「発話時を含む時間語」の中では「今」との関係が非常に強く、ある行為や出来事がなされた時間が発話時にかかなり近いことが分かる。

次に発話以前を表す時間語を<表2>にまとめてみると以下の通りとなる。

<表2> 「~たばかり」と発話以前を表す時間語との関係

時間語	件数
昨日	32
たった今	21
この間	15
今しがた	12
昨晚(昨夜)	8
去年	8
一昨日	6
さっき	5
先日	4
先刻	4
先頃	4
今先	4
今々	1
今さっき ¹⁶⁾	1

上の表を見ると「昨日」が最も多く32件で、次に「たった今」、「この間」、「今しがた」が比較的多かった時間語であるが、「たった今」と「今しがた」はどちらかと言えばある行為や出来事が起こった時期が発話時点のほんの少し前を表しているのに比べ、「この間」は話者の当面している日よりも少し前の日を表しており、その日に起こったことではないことにも「~たばかり」が共起していることが分かる。次に時間の中における事態の進展を表す時間語のうち起動への時間の幅が長期にわたって所要することを表す「ようやく」と「やっと」について見ると以下の通りとなる。

15) 『日本国語大辞典第1巻』では「昨日今日」を「つい最近、近頃、昨今」の意味として一つの単語として扱っているため本稿では「昨日」、「今日」と分離せずカウントした。

16) 本稿での「今さっき」は『日本国語大辞典第1巻』を見ると「今先」の変化した一つの単語として扱われているため「今」と「さっき」を分離して考えないことにする。

<表 3> 「~たばかり」と長期所要型の時間語との関係

時間語	件数
やっと	35
ようやく	8

「やっと」や「ようやく」は期待したり待ち望んでいた事柄が時間や労力やお金はかかったが何とか実現するという意味を表す時間語であるが、そこに「~たばかり」が後続することで話者が願っていたことが実現して間もないということを表しており、そこには話者の事態実現までの心理的長さが内包された意味合いを持っている。次に上の「やっと」、「ようやく」以外に想定事態に至る前の未実現事態としての「まだ、もう」との関係を見てみることにする。

<表 4> 「~たばかり」と「まだ、もう」との関係

時間語	件数
まだ	78
もう	1

「~たばかり」と「まだ」の関係では他の時間語と比べると「今」に続き2番目に多く抽出された時間語である。「~たばかり」と「まだ」との関係を見るために青空文庫から抽出した例文を見てみることにする。

- (1) 伸子が前崎へ行ったのは**まだ**家が出来た**ばかり**で、門も垣根もない時分のことであった。

<宮本百合子『二つの庭』から>

(1)では「家が出来た」という事態は、想定した事態「門も垣根も出来ている」という事柄に至る前の未実現事態として取り出され、その未実現事態に対する理由は「家が出来たばかり」だと説明されており、また設定時は家が出来た直後で、その設定時において家が出来て間もないことを言っている。次に不定時を含む時間語との関係を見ていくことにする。

<表 5> 「~たばかり」と不定時を含む時間語との関係

時間語	件数
その頃	4
この頃	2
その日に	1
その翌朝	1
その前年の8月に	1
その夏になる前に	1

不定時を含む時間語というのは基準時が過去のある時点に置かれ、その基準時を含む時間帯を示すもので、「~たばかり」との関係では全体的にあまり共起していないことが表5から窺える。次は不定時以前を表す時間語との関係を見ていくことにする。

<表 6> 「~たばかり」と不定時以前を表す時間語

時間語	件数
〇〇日前 ¹⁷⁾	6
〇週間前 ¹⁸⁾	4
数日前に	3
〇ヶ月前 ¹⁹⁾	2
2年前	1
30分ほど前	1
前夜	1

不定時以前を表す時間語とは基準時をある時に置き、その基準時以前の時間を示すもので、実際の青空文庫の例文から見ていくことにする。

(2)にわかに演壇に立たされて、困りながら伸子は、自分がたった二週間前に日本から来たばかりなこと、ロシア語が話せない、ということをつた。

(2)での基準時は「二週間前に日本から来たこととロシア語が話せない」という内容の話をした時点となり、その話をした時点を基準として日本から来て間もないことを言ってい

17) 「〇〇日前」の内訳は「2、3日前」、「4、5日前」共に3件ずつである。

18) 「〇週間前」の内訳は「1週間前」、「2週間前」共に2件ずつである。

19) 「〇ヶ月前」の内訳は「2ヶ月前」、「3ヶ月前」共に1件ずつである。

る。<表 7>で注目すべき点は「~たばかり」と共起している時間語のうち、「2ヶ月」、「3ヶ月」は1件だけではあるが「2年前」というかなり時間的に遠い過去を表す時間語とも共起している点である。最後に絶対的時点との関係を見ていくことにする。

<表 7> 「~たばかり」と絶対的時点の時間語との関係

時間語	件数
朝	3
この春	2
この夏	2
一九一八年	1
この6月下旬に	1

絶対的時点の時間語というのは表そうとしている時点が発話時であれ、違う時点であれ、基本的にその時間語自体が指示時点を確定的に示しているものを指しており、その時点が過去なのか未来なのかはそれ自体では決まらない時間語のことを指す。表 7 を見ると「~たばかり」との共起関係ではかなり少ないことが分かる。

5. 「~たところ」と時間語との関係

「~たばかり」と同様、正規表現検索窓 FOR 日本語コーパス言語学の検索エンジンで「~たところ」を抽出した結果、計 5979 の文章がヒットし、その中から本稿での調査対象となっていない「~たところ」をすべて取り除くと計 228 件となった。この 228 件の文章のうち、さらに時間語と共に使われている文章を振り分けた結果、計 103 件の文章を抽出できた。この 103 件の文章に出てきた時間語をそれぞれ時間語の特性別に表にまとめると以下の通りになる。

<表 8> 「~たところ」と発話時を含む時間語との関係

時間語	件数
今	67
ただ今	3
今日	1

表8の結果を見ると発話時を含む時間語のうち「~たところ」と最も多く共起しているのは「今」で、抽出した文章が103件であることを考えると全体の65%を占めており、「~たばかり」との関係では466件の文章のうち「今」が共起している場合が151(全体の32%)であったのを見るとかなりの頻度で共起しているのが分かる。また、「~たばかり」との関係では11の時間語と共起しており、そのうちの「最近」や「今年」など比較的時間の幅のある時間語とも共起しているのに比べ、「~たところ」では比較的時間の幅の狭い、発話時にかなり近い時間語と強い関係を持っていることが分かる。次に発話以前を表す時間語との関係を見ていく。

<表9> 「~たところ」と発話以前を表す時間語との関係

時間語	件数
さっき	6
今も	5
今しも	2
今や	2
今々	1
たった今	1
今しがた	1
今まで ²⁰⁾	1
昨日	1

表9を見ると9種の時間語が抽出されたが、「~たばかり」との関係では14種の時間語と共起していることから「~たばかり」よりはやや制約的に共起していることが分かる。また、表9の時間語の中で発話時からもっとも時間的に離れているのは「昨日」であるが、「~たばかり」では「この間」、「去年」のように発話時から考えるとその日ではない、時間的にかなり離れている時間語とも共起していることを比べると「~たところ」は発話時に比較的近い時間での使われ方をしていることが分かる。次に不定時以前を表す時間語について見ることにする。

<表10> 「~たところ」と不定時以前を表す時間語

時間語	件数
二時間ばかり前	1

20) ここで抽出した「今まで」は青空文庫では「あんまり結構でございますから、つい、登様の御機嫌を伺いに行くのも忘れて、今まで夢中に拝見いたしたところでございます」のように過去における経験を表す「今まで」ではなく現時点が終点であることを指している「今まで」である。

本稿での調査では「~たところ」と不定時以前を表す時間語は一つのみで不定時を含む時間語は全く抽出されなかった。「~たばかり」との関係では不定時を含む時間語は6種、不定時以前を表す時間語は10種抽出されたことを考えると「~たところ」と不定時以前を表す時間語との関係ではほとんど共起しないと言っても過言ではないであろう。つまり、「~たところ」は常に発話時との関係が深いため、発話時から離れたある過去の時点に基準を置いて、その基準時以前の時間帯を示しにくいということが考えられる。次に絶対的の時点を表す時間語を見ていくことにする。

<表11> 「~たところ」と絶対的の時点を表す時間語との関係

時間語	件数
夜	1

表11を見て分かるように絶対的の時点を表す時間語は「夜」のみでそれ以外は全く共起していない。「夜」という時間語は循環性のある語で、「午前」や「正月」と同様、一定の間隔を置いて繰り返し現れる語である。「~たばかり」では過去から未来へと一直線に伸びる時間軸上に時点を位置づける「19〇〇年」のような使い方では一件のみが抽出されたが「~たところ」では上述した通り発話時との密着な関係のため遠い過去を表す時間とは共起しないのであろう。しかし、「夜」の場合は夜になってある行動や出来事が終わった直後であれば使うことができるのだらうと解釈できる。最後に長期所要型の「ようやく」、「やっと」を見ることにする。

<表12> 「~たところ」と長期所要型の時間語との関係

時間語	件数
やっと	9
ようやく	5

表12を見ると「やっと」が9件、「ようやく」が5件で、「やっと」は「今」に続き二番目に多い結果となり、抽出した時間語の中では「やっと、ようやく」が全体の14%と「~たばかり」と「やっと、ようやく」との関係では全体の9%よりやや頻度率が高かった。「~たところ」は客観的な事実を描写するという主張があるが、「やっと、ようやく」という時間語の性質について「話者が目的の実現を待ち望んでいる暗示がある、待ち望んでいた物事が実現する様子

を表す²¹⁾と延べられていることから考えると「~たところ」も「~たばかり」も「やっと、ようやく」との関係においては両方とも話者の主観が入っているということが分かる。

また「~たところ」と「まだ」との関係を見ると調査の結果1件も抽出されなかった。「~たばかり」と「まだ」との関係においては466件の文章のうち78件とかなり高い頻度率であった。ここで「~たばかり」と「まだ」の例文を見ながら考察することにする。

- (3)お民はまだ十八の春を迎えたばかり (島村藤村『夜明け前』から)
 (4)まだ東の空が白みかけたばかりであるので (岡本綺堂『中国怪奇小説集』から)
 (5)まだ起きたばかりで半分寝ぼけているお滝には、何がどうしたのか判らなかつた。
 (岡本綺堂『半七捕物帳』から)

『現代副詞用法辞典』では「まだ」について「基準点を現時点におき、現時点ではある状態や行為が一定の段階(完了段階)に達していないという意味で、将来完了段階に到達するという期待の暗示がある」としている²²⁾。このことから(3)は十八の春を迎えて間もなくまだ成人には達していないことを暗示しており、また(4)では東の空が白みかけた直後で、完全に夜が明けていないことを想定して話しており、(5)は発話時点で起きた直後なのでまだ完全に覚めていないことを想定して話していると言える。これらの想定した基準というのはあくまでも話者の主観的な判断によるものであるということを考えると「~たばかり」と「まだ」の関係においては主観的な観点からの想定が基準となって使われていることが明らかであり、それに対して「~たところ」は「まだ」と共起する文章が一つも出なかったことから「~たばかり」よりは主観的な観点が弱く、客観的な立場で使われている傾向があるからではないかと思われる。

6. おわりに

以上の調査をまとめてみると以下の通りとなる。

1. 「~たばかり」も「~たところ」も「今」との関係においては他の時間語に比べて非常に強

21) 飛田良文・浅田秀子(1995)『現代副詞用法辞典』東京堂出版、pp.564-565、p.576

22) 飛田良文・浅田秀子(1995)『現代副詞用法辞典』東京堂出版、p.497

い共起関係を示しており、「今」の性質から両方の表現とも発話時にかなり近い過去か発話時自体を表していることが分かった。

2. 「~たばかり」と「~たところ」と発話時を含む時間語との関係を比較すると「~たばかり」との関係では「最近」・「今年」など比較的時間の幅のある時間語とも共起しているが、「~たところ」との関係では「今」・「ただ今」・「今日」の三つの時間語としか共起していないことを見ると「~たところ」は「~たばかり」のように発話時からかなり離れた時間を表しにくいということが分かった。
3. 「~たばかり」と「~たところ」と発話以前を表す時間語との関係を見ると「~たばかり」では「この間」・「去年」のように発話時を中心としてその日ではない、かなり時間的に離れている時間語とも共起しているのに比べ、「~たところ」では発話時からあまり離れていない過去を表す時間語との共起が見られ、「~たばかり」よりかなり制約的に時間語が使われていることが分かった。
4. 「~たばかり」と「~たところ」と長期所要型の時間語との関係を見ると、「やっと、ようやく」との共起が両表現ともに見られ、「やっと、ようやく」の性質が「話者が目的の実現を待ち望んでいる暗示がある、待ち望んでいた物事が実現する様子を表す」ということから両方とも話者の主観が入っていることが分かった。
5. 「~たばかり」と「まだ」においては78件の共起が見られたのに対し、「~たところ」では「まだ」との共起が一つも見られず、「まだ」の性質が話者の主観的な判断からの想定が前提となっていることから「~たばかり」は「~たところ」よりもかなり話者の主観的な立場で話す傾向が強いことが分かった。

以上、「~たばかり」と「~たところ」と時間語との共起関係を調べることによって両表現の時間語との関係における類似点と相違点を考察した。今後の課題としてはこれらの調査をもとに韓国語 ‘막~했다’ と ‘~한지 얼마 되지 않다’ との対照を通して日韓両言語の類似点と相違点を明らかにしていきたい。

【参考文献】

- 金昌奎(2008) 「~たばかりだ」と「~たところだ」における「ばかり」と「ところ」の意味機能の研究『일어일문학』39집
- 吳守鎭(2011) 「~たところだ」と「~たばかりだ」に関する一考察『일어일문학』50집
- 楠本徹也(1999) 「トコロの意味と機能に関する一考察」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』26
- 中村重穂(1999) 「再び、「~たばかり」について：意味論的観点から」『北海道大学留学生センター紀要』3
- 仁田義雄(2002) 『副詞的表現の諸相』くろしお出版
- 森山卓郎(1984) 「~ばかりだ/~ところだ」『日本語学』vol.3-10 明治書院、pp.13-20

【参考サイト】

- 青空文庫 <http://www.aozora.gr.jp/>
- 正規表現検索窓口FOR日本語コーパス言語学 <http://www.nihon.co.kr/rxsearch.html>

【参考教材】

- 박순애 외(1995) 「일본어뱅크 일본어회화2」일본어뱅크

【参考辞典】

- 北原保雄外(2001) 『日本国語大辞典第二版 第1巻』小学館
- 飛田良文・浅田秀子(1995) 『現代副詞用法辞典』東京堂出版

논문투고일 : 2012년 06월 10일
심사개시일 : 2012년 06월 20일
1차 수정일 : 2012년 07월 10일
2차 수정일 : 2012년 07월 20일
게재확정일 : 2012년 07월 25일

 要旨

 「～たばかり」と「～たところ」の時間語との共起関係
 —青空文庫を中心に—

本研究はこれまで論議されてきた「～たばかり」と「～たところ」について時間語との共起関係という観点から青空文庫を通して考察したものである。考察した結果、次のようなことが言える。

まず、「～たばかり」も「～たところ」も「今」という時間語との関係においては共にかなり強い共起関係を見せているが、発話時を含む他の時間語を比較すると「～たばかり」では「最近」、「今年」など比較的時間の幅のある時間語とも共起しているのに比べ、「～たところ」では発話時点に近い時間語との共起が見られた。また、発話時以前を表す時間語との関係では「～たばかり」は「この間」、「去年」のように発話時よりかなり遠い過去を表す時間語とも共起しているが、「～たところ」では発話時からあまり離れていない時間語との共起が強く見られた。そして、「やっと、ようやく」での関係では両方との共起が見られたが、このことは両者とも話者の主観が入っており、特に「まだ」との関係では「～たばかり」では78件の共起が見られたが、「～たところ」では一件も見られなかったことから「～たばかり」の方が「～たところ」よりも話者の主観的な立場で話す傾向が強いことが分かった。

Study on time-related words and co-occurrence of '-tabakari' and '-tatokoro' through 'Aozora'

This study discussed possible views on time-related words and co-occurrence of '-tabakari' and '-tatokoro' that were considered through 'Aozora' and reached the following results.

First of all, considerably strong co-occurrence was found in '-tabakari' and '-tatokoro' in terms of relation of 'ima', a time-related word. Comparing with other time-related words including utterance time, however, '-tabakari' co-occurred with time-related words such as 'saikin', and 'kotoshi' that showed a relatively wide time gap while '-tatokoro' showed co-occurrence with time-related words close to utterance time.

In terms of relation with time-related words indicating 'pre-' when utterance happened, '-tabakari' co-occurred with time-related words such as 'konomae', and 'kyonen' that indicated considerably long past before the utterance happened, when '-tatokoro' showed strong co-occurrence with time-related words that are not far from utterance time. In addition, both '-tabakari' and '-tatokoro' showed co-occurrence in relation to 'yatto', and 'youyaku', but personal intervention was engaged in both cases. Particularly, looking into relation with 'mada', '-tabakari' showed 78 cases of co-occurrence whereas there was none of this case found in '-tatokoro', which indicated that '-tabakari' was more likely to make utterance equipped with speaker's personal intervention than '-tatokoro'.